

なかつがわ全市景気ウォッチャー調査

〈市内の景気の動向を接客や取引を通じて肌で感じている人たちによる客観的な景況感調査〉

平成23年5月調査結果

現在の景気の現状判断は、3月より1.5%ポイント改善の21.7%ポイントと、わずかながら上向きに転じた判断となっています。

次に1年前と比べた場合の景気の前年判断では、3月と比べ4.9%ポイント改善し24.4%ポイントとなっています。

また、3ヶ月前と比べた場合の景気の現状判断では、3月と比べ13.4%ポイント改善し32.9%ポイントとなっています。

3～6ヶ月先の景気の前向き判断では、3月と比べ20.6%ポイント改善し41.4%ポイントという予想となっています。

◎ 全体的には、東日本大震災の影響による消費の低迷や生産力の低下といった大きな景気の落ち込みから、購買意欲の回復などによる上向きの兆しがみられたものと考えられます。

雇用については、震災の影響により依然として悪化傾向にあるものと思われます。

こうしたことから、景気の前向きは、「東日本大震災の影響により厳しい状況が続いているものの、わずかに上向きの傾向が見られる」ものと思われます。

平成23年6月13日

なかつがわ全市緊急経済対策本部

調査の概要

○調査の目的

市内の景気の動向に関連のある人々の協力を得て、市内の景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とする。

○調査の対象

- 1 対象地域 市内全域
- 2 調査客体
家計動向、雇用等の代表的な経済活動に携わる、さまざまな業種の方々、45名

○調査事項

- 1 景気の現状に対する判断（方向性）
- 2 1の理由
- 3 2の追加説明及び具体的状況の説明
- 4 景気の先行きに対する判断（方向性）
- 5 4の理由

○調査の時期

調査は隔月、当月時点で、調査期間は毎月25日から月末まで(今回は6月13日まで)

○有効回答率

84.4% 有効回答客体 38名

○判断方法

日本銀行で発表している「主要(全国)企業短期経済観測調査」いわゆる「日銀短観」や内閣府で発表している「景気動向指数」に使われている経済指数をディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)略して「D I」といいます。

「D I」には、「日銀短観」で使われる単純に3つの選択肢、たとえば「良い」、「変わらない」、「悪い」を用意し、回答から%を求め「良い」の%から「悪い」の%を引いた指数(%ポイント)が0を境に0以上になれば景気回復、0以下になれば景気後退を示す方法と「景気動向指数」のように3つ以上の選択肢を用意し、その選択肢に均等に0~1の評価点を与え、それぞれの回答から%を求めそれぞれの評価点を乗じたものの合計を指数(%ポイント)として50を境に50以上になれば景気回復、50以下になれば景気後退を示す方法の二つが主に使われています。

前者に比べ後者の方が選択肢が幅広くなり、より正確な指数を得ることができます。

今回の調査は、選択肢を5つ用意していますので、「景気動向指数」と同じ後者の方法で判断するものとします。

1 D I 値の算出方法

5段階の判断にそれぞれ以下の点数を与え、これらに各判断の構成比(%)を乗じて、D I 値を算出する。

評価	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
評価点	1	0.75	0.5	0.25	0

2 D I 値について

D I 値が 5 0 の場合は横ばいを示し、0 に近づくほど景気後退傾向、逆に 1 0 0 に 近づくほど景気回復傾向であることを示す。

1 0 0 ← 5 0 → 0
 良くなっている 変わらない 悪くなっている

例えば

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	
調査結果	8	9	9	10	9	
構成比 (%)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0	
各 D I 値	17.8	15	10	5.6	0	
D I 値 (合計)	48.4			⇒	ほんの少し景気が後退している	

となります。

調査の結果

1 現在の景気の現状判断

現在の景気の現状判断としては、3月より1.5%ポイント改善の21.7%と、わずかながら上向きに転じた判断となっています。

内訳では、家計動向関連の小売関連で10.7%ポイント改善し25.0%、飲食観光関連で2.3%ポイント改善し20.5%と上昇したものの、サービス関連では8.3%ポイント悪化し16.7%と厳しい判断となっています。

また、雇用関連では、3月より10.6%ポイント悪化し21.5%と、厳しい状況が増した判断となっています。

表1 5月構成比

	良い	やや良い	どちらとも 言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
合計	0.0	0.0	23.7	39.5	36.8	0.0	21.7
家計動向関連	0.0	0.0	22.6	41.9	35.5	0.0	21.8
小売関連	0.0	0.0	28.6	42.9	28.6	0.0	25.0
飲食観光関連	0.0	0.0	18.2	45.5	36.4	0.0	20.5
サービス関連	0.0	0.0	16.7	33.3	50.0	0.0	16.7
雇用関連	0.0	0.0	28.6	28.6	42.9	0.0	21.5

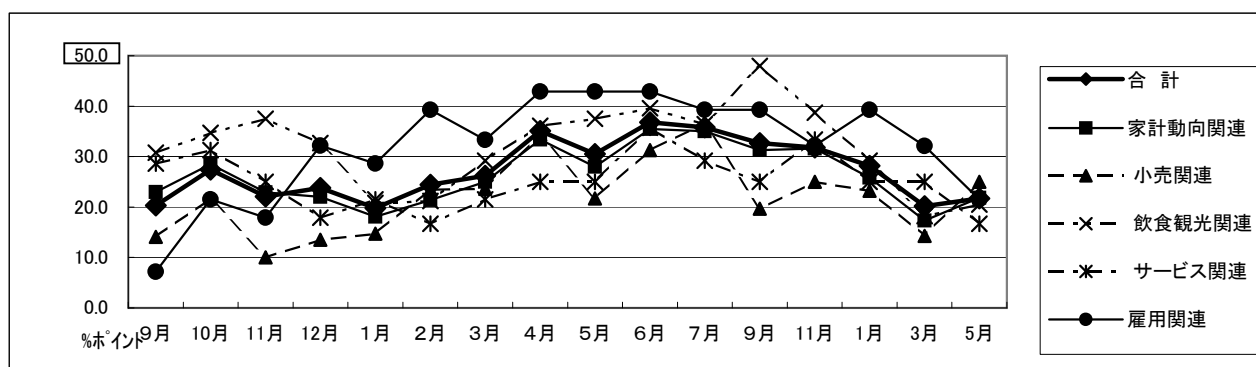
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良い	やや良い	どちらとも 言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
2010	7	0.0	10.8	37.9	35.1	16.2	0.0	35.8
	9	5.1	5.1	18.0	59.0	12.8	0.0	32.7
	11	2.7	2.7	32.5	43.2	18.9	0.0	31.8
2011	1	0.0	5.1	28.2	41.0	25.7	0.0	28.2
	3	0.0	2.8	25.0	22.2	50.0	0.0	20.2
	5	0.0	0.0	23.7	39.5	36.8	0.0	21.7
	(前月差)	(0.0)	(-2.8)	(-1.3)	(17.3)	(-13.2)	(0.0)	(1.5)

表3 D I 値の推移

	2010年			2011年			(前月差)
	7月	9月	11月	1月	3月	5月	
合計	35.8	32.7	31.8	28.2	20.2	21.7	(1.5)
家計動向関連	35.0	31.3	31.6	25.8	17.3	21.8	(4.5)
小売関連	36.6	19.7	25.0	23.2	14.3	25.0	(10.7)
飲食観光関連	36.4	48.0	38.7	29.2	18.2	20.5	(2.3)
サービス関連	29.2	25.0	33.4	25.0	25.0	16.7	(-8.3)
雇用関連	39.3	39.3	32.2	39.3	32.1	21.5	(-10.6)



2-1 1年前と比べた場合の景気の現状判断

1年前と比べた場合は、3月に比べ4.9%改善の24.4%と、わずかながら上向きに転じた判断となっています。

内訳は、家計動向関連の小売関連で14.3%改善し26.8%、飲食観光関連は4.6%改善し22.8%と上向きになったものの、サービス関連では2.1%悪化し16.7%と厳しい判断となっています。

また、雇用関連は、3月より7.1%悪化し28.6%と、さらに悪化を示す判断となっています。

表1 5月構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
合計	0.0	5.3	18.4	44.7	31.6	0.0	24.4
家計動向関連	0.0	3.2	19.4	45.2	32.3	0.0	23.4
小売関連	0.0	0.0	28.6	50.0	21.4	0.0	26.8
飲食観光関連	0.0	9.1	9.1	45.5	36.4	0.0	22.8
サービス関連	0.0	0.0	16.7	33.3	50.0	0.0	16.7
雇用関連	0.0	14.3	14.2	42.9	28.6	0.0	28.6

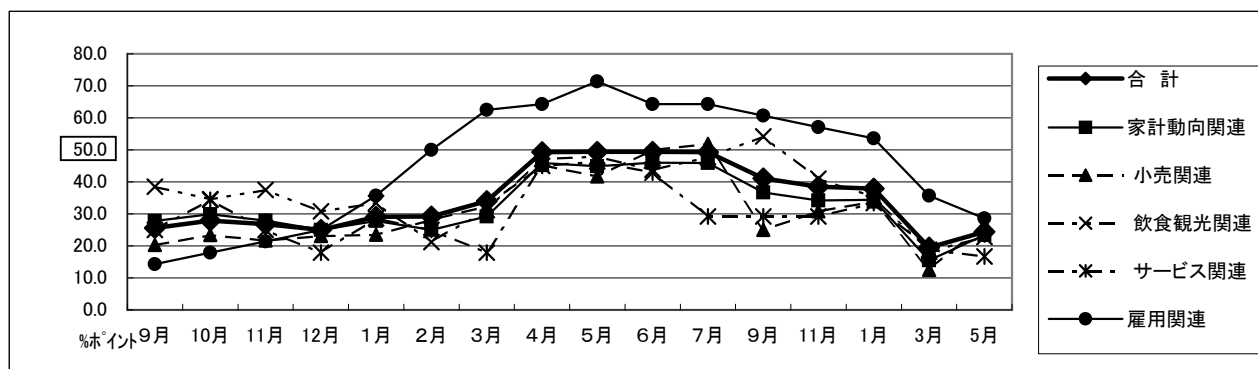
※「未回答」は、「変わらない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
2010	7	0.0	35.1	37.9	16.2	10.8	0.0	49.3
	9	7.7	10.3	38.5	25.6	17.9	0.0	41.1
	11	2.7	16.2	27.0	40.5	13.5	0.0	38.5
2011	1	0.0	18.0	33.3	30.8	17.9	0.0	37.9
	3	0.0	5.6	11.1	38.9	44.4	0.0	19.5
	5	0.0	5.3	18.4	44.7	31.6	0.0	24.4
	(前月差)	(0.0)	(-0.3)	(7.3)	(5.8)	(-12.8)	(0.0)	(4.9)

表3 D I 値の推移

	2010年			2011年			(前月差)
	7月	9月	11月	1月	3月	5月	
合計	49.3	41.1	38.5	37.9	19.5	24.4	(4.9)
家計動向関連	45.9	36.7	34.2	34.4	15.5	23.4	(7.9)
小売関連	51.9	25.0	30.8	33.9	12.5	26.8	(14.3)
飲食観光関連	47.7	54.2	41.0	35.4	18.2	22.8	(4.6)
サービス関連	29.2	29.2	29.2	33.4	18.8	16.7	(-2.1)
雇用関連	64.3	60.7	57.1	53.6	35.7	28.6	(-7.1)



2-2-1 3ヶ月前と比べた場合の景気の現状判断

3ヶ月前と比べた場合は、3月に比べ13.4%ポイント改善の32.9%ポイントと、急激に上向きに転じた判断となっています。

内訳は、家計動向関連の小売関連で23.3%ポイント改善し35.8%ポイント、飲食観光関連は13.7%ポイント改善し38.7%ポイント、サービス関連では2.1%ポイント改善し33.4%ポイントとすべて上向きの判断となっています。

また、雇用関連は、3月同様横ばいの17.9%ポイントと、依然厳しい判断となっています。

表1 3月構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
合計	2.6	13.2	18.4	44.7	21.1	0.0	32.9
家計動向関連	3.3	16.1	22.6	38.7	19.4	0.0	36.4
小売関連	0.0	14.3	28.6	42.9	14.3	0.0	35.8
飲食観光関連	9.1	18.2	18.2	27.2	27.3	0.0	38.7
サービス関連	0.0	16.7	16.7	50.0	16.7	0.0	33.4
雇用関連	0.0	0.0	0.0	71.4	28.6	0.0	17.9

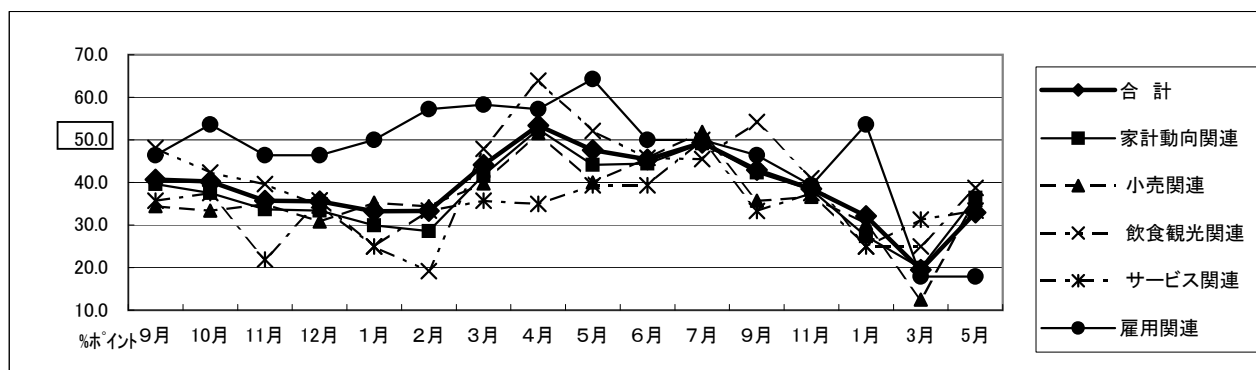
※「未回答」は、「変わらない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
2010	7	2.7	13.5	67.6	10.8	5.4	0.0	49.3
	9	5.4	5.4	51.4	29.7	8.1	0.0	42.6
	11	0.0	10.8	45.9	29.7	13.5	0.0	38.5
2011	1	0.0	5.2	41.0	25.6	25.6	2.6	32.1
	3	2.8	0.0	16.7	33.3	47.2	0.0	19.5
	5	2.6	13.2	18.4	44.7	21.1	0.0	32.9
(前月差)		(-0.2)	(13.2)	(1.7)	(11.4)	(-26.1)	(0.0)	(13.4)

表3 D I 値の推移

	2010年			2011年			(前月差)
	7月	9月	11月	1月	3月	5月	
合計	49.3	42.9	38.5	32.1	19.5	32.9	(13.4)
家計動向関連	49.2	42.3	38.3	27.4	19.9	36.4	(16.5)
小売関連	51.9	35.7	36.6	30.4	12.5	35.8	(23.3)
飲食観光関連	45.5	54.2	41.0	25.0	25.0	38.7	(13.7)
サービス関連	50.0	33.3	37.5	25.0	31.3	33.4	(2.1)
雇用関連	50.0	46.4	39.3	53.6	17.9	17.9	(0.0)



2-2-2 3ヶ月前と比べた場合の景気の判断理由

判断の理由として家計動向関連の小売関連では、東日本大震災の影響による売上の落ち込みや延び悩みなどから「販売量の動き」が57.1%、「来客数の動き」が50.0%と多くなっています。

飲食観光関連では、東日本大震災の影響による来客数の減少から「来客数の動き」が72.7%と高くなっています。

サービス業関連でも、東日本大震災の影響による来客数の減少から「お客様の様子」が83.3%と高くなっています。

次に、雇用関連では、東日本大震災による雇用情勢の悪化などから「周辺企業の様子」が71.4%、「求人数の動き」が42.9%、と高くなっています。

	①来客数の動き	②販売量の動き	③単価の動き	④お客様の様子	⑤競争相手の様子	⑥それ以外
家計動向関連	58.1	41.9	12.9	35.5	6.5	9.7
小売関連	50.0	57.1	21.4	28.6	7.1	21.4
飲食観光関連	72.7	45.5	9.1	18.2	9.1	0.0
サービス関連	50.0	0.0	0.0	83.3	0.0	0.0
	①求人数の動き	②求職者数の動き	③採用者数の動き	④雇用形態の様子	⑤周辺企業の様子	⑥それ以外
雇用関連	42.9	28.6	0.0	0.0	71.4	14.3

※複数回答による割合

3 3～6ヶ月先の景気の先行き判断

景気の先行きについては、東日本大震災の影響が大きかった3月より20.6%改善の41.4%と震災前の1月の水準近くまで回復する予想となっています。

内訳は、小売関連は17.8%の改善を見込み35.7%、飲食観光関連で15.9%の改善を見込み45.5%、サービス関連も27.1%の改善を見込み45.9%と顕著な回復傾向を示す予想となっています。

また、雇用関連では、3月に比べ28.6%改善の42.9%と大幅な上向き傾向を示す予想となっています。

表1 5月構成比

	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
合計	2.6	18.4	34.2	21.1	18.4	5.3	41.4
家計動向関連	3.2	19.4	32.3	16.1	22.6	6.5	41.2
小売関連	0.0	21.5	21.4	21.4	28.6	7.1	35.7
飲食観光関連	9.1	18.2	36.4	18.2	18.2	0.0	45.5
サービス関連	0.0	16.7	50.0	0.0	16.7	16.7	45.9
雇用関連	0.0	14.3	42.9	42.9	0.0	0.0	42.9

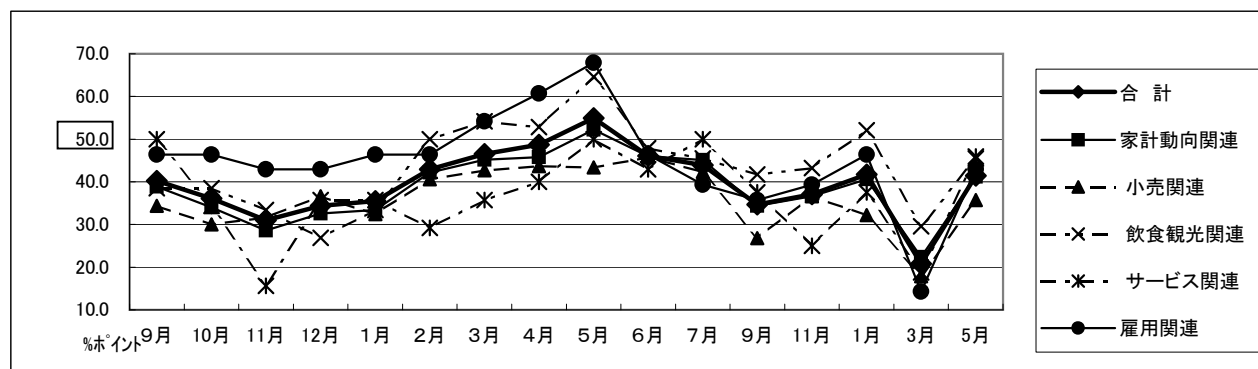
※「未回答」は、「変わらない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
2010	7	2.7	13.5	51.4	21.6	10.8	0.0	43.9
	9	0.0	7.7	38.5	38.5	15.3	0.0	34.7
	11	0.0	10.8	40.5	29.7	16.2	2.7	37.1
2011	1	5.1	15.4	33.3	28.2	15.4	2.6	41.7
	3	0.0	11.1	13.9	22.2	52.8	0.0	20.8
	5	2.6	18.4	34.2	21.1	18.4	5.3	41.4
	(前月差)	(2.6)	(7.3)	(20.3)	(-1.1)	(-34.4)	(5.3)	(20.6)

表3 D I 値の推移

	2010年			2011年			(前月差)
	7月	9月	11月	1月	3月	5月	
合計	43.9	34.7	37.1	41.7	20.8	41.4	(20.6)
家計動向関連	45.1	34.4	36.6	40.6	22.4	41.2	(18.8)
小売関連	42.3	26.8	36.6	32.2	17.9	35.7	(17.8)
飲食観光関連	45.5	41.7	43.2	52.1	29.6	45.5	(15.9)
サービス関連	50.0	37.5	25.0	37.5	18.8	45.9	(27.1)
雇用関連	39.3	35.7	39.3	46.4	14.3	42.9	(28.6)



景気の現状判断の理由

分野	景気の判断		調査対象	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
	3ヶ月前	1年前					
家 計 動 向 関 連	良くなっている	やや良くなっている	観光案内所	来客数と販売量の動き	・来館者数が増加している。東日本大震災で減少傾向でしたが、観光客、サラリーマンが徐々に増えて来ている。		
	やや良くなっている	変わらない	小売店	競争相手の様子	・震災直後よりよくなったという程度。		
			小売店	販売量の動き	・3ヶ月前は、東日本大震災の影響もあり、人の動きなどもなく、販売量についても影響がありましたが、今は、少しずつ人の動きなど感じられ様になり、少しずつ回復しているように思います。		
	やや悪くなっている	変わらない	食堂	来客数、販売量の動きとお客様の様子	・3月の不測の事態以後、今ひとつ人の動きが少ないように思う。特に遠方の人が少ないようです。		
			レストラン	販売量の動き	・東日本大震災直後の状況からは脱しつつあるが、依然として状況は厳しい。		
			福祉施設	来客数の動きとお客様の様子	・生活福祉資金貸付相談が増えた。震災の関係で仕事が減ったという声を聞く。		
	変わらない	変わらない	小売店	来客数、販売量の動きとお客様の様子	・地道な努力で急激な売上増より、安定的な信頼との間でお客様を大切にしていきたい。		
			小売店	販売量の動きとお客様の様子	・4月は震災の影響で品薄になり、欠品値上がり、5月は商品が多く出ました。		
			道の駅	来客数の動きとお客様の様子	—		
			小売店	来客数、販売量、単価の動き	—		
			悪くなっている	悪くなっている	スーパー	来客数、販売量、単価の動き	—
					道の駅	販売量の動き	—
					理容店	来客数の動き	—
	やや悪くなっている	変わらない	金融機関	お客様の様子	・震災の直接的な影響はないものの、消費を控えるなどの動きがある。		
			やや悪くなっている	商店街関係者	お客様の様子	—	
				商店街関係者	来客数の動き	・来店客の多い日と少ない日がハッキリしている。	
			商店街関係者	来客数の動き	・お客様の買い控え。		
			小売店	来客数の動きとお客様の様子	—		
			自動車販売	販売量、単価の動き	・お客様が減っている。		
			レストラン	来客数、単価の動き	—		
レストラン			来客数の動き	・大型連休中の来客数はほぼ昨年と同じ数字で推移しましたが、それ以降、週末特に土曜日の客足が伸びません。			
ホテル			来客数の動き	・キャンセルが相つぎ、予約数も減少。			
金融機関			お客様の様子	・生活資金等の融資を希望されご来店されるお客様が増えたように思います。			
悪くなっている	小売店	販売量の動き	・5月 昨対85%と過去最高の落ち込み。				

		タクシー運 転手	来客数の動きと お客様の様子	・夜のお客様の減少。
悪く なっている	やや悪く なっている	スーパー	販売量の動き	—
	悪く なっている	小売店	来客数の動きと お客様の様子	・消費の冷えこみの様です。
悪く なっている	悪く なっている	居酒屋	来客数の動き	・震災による自粛ムードで、年度変わりの会合による二次会がなくなった為。
		居酒屋	来客数の動きと 競争相手の様子	・田舎のしがらみ、国の現状に右ならえ、保守的。
		旅行代理店	販売量の動き	・昨年に比べるとツアーの申込、参加者は少ない。
		タクシー運 転手	お客様の様子	・町に人がいない。駅にいても電車から降りられて来るのは、学生さんのみくらい。
やや悪く なっている	やや良く なっている	労働相談所	求人数と求職者 数の動き	・1年前とくらべて有効求人倍率はよくなっているが、3ヶ月前とくらべ4月実績は悪化している。 (1.01→0.78にダウン)
	変わらない	職業安定所	求人数の動きと 周辺企業の様子	・東日本大震災後、製造業を中心として新規求人が減少し、雇用調整助成金利用企業の増加で事業活動は後退基調に転じている。
	やや悪く なっている	労働金庫	震災における影 響	・中津川地区の自動車関連企業においては震災の影響で稼働率が50%程度となっている。また、夏場の電力事情が自動車関連以外でも操業についての不安材料となっている。
		学校就職担 当	周辺企業の様子	—
		学校就職担 当	周辺企業の様子	・特に、自動車関連企業の仕事量が減っていると聞きます。建設業も仕事が少なく困っていると地域の人から聞きます。
悪くなっ ている	悪くなっ ている	人材派遣会 社	求人数、求職者 の動きと周辺企 業の様子	・①震災の影響で車の部品関係に就業していた派遣社員は一部休業が続いている。(休業手当支給) ②求人求職ともリーマンショック時に匹敵する状況といえる。(6/11～)
		自治体労働 政策担当	周辺企業の様子	・当地域の基幹産業である製造業について、収益悪化が見込まれる。受注減の状態が続いており、現状では悪い状況が続いている。

景気の先行き判断の理由

分野	景気の判断	調査対象	追加説明及び具体的状況の説明	
家 計 動 向	良くなる	観光案内所	・新店舗が7月3日店舗拡大してリニューアルオープンする事により、来客数増加と秋が近付き栗きんとんの販売が始まり両方で売り上げは必ずアップする。	
	やや良くなる	商店街関係者	・震災後、ムードはあまり良くないと思いますが、ゆっくりでいいから、景気が良くなってほしいです。希望です。	
		小売店	・震災の影響が徐々にうすれて良くなってくると思います。	
		小売店	・にぎわい館などの開業もあり、今より良くなるように思います。(そうあってほしいと願います)	
		食堂	・夏から秋になれば、毎年のように人の動きが良くなると思う。	
		居酒屋	・過去、最悪とっていいでしょうから。	
	金融機関	・東日本大震災の影響で減産を余儀なくされている自動車メーカーと、その関連会社の生産体制が通常に戻って来るであろうから。		
	関 連	変わらない	小売店	—
			小売店	・現在が悪いのでこれ以上悪くならないと思う。
			小売店	—
道の駅			—	
道の駅			—	
ホテル			—	
旅行代理店			・まだまだ旅行に行こうという方が少ない。景気が悪いので出費もひかえる。	
福祉施設			・震災による景気低迷の影響がこの地域にも来ると思われる。	
タクシー運転手			・今より悪くなることはないと思う。	
タクシー運転手			・このままの状況が続いてしまうと、会社自体景気が悪くなる。	
やや悪くなる	小売店	—		
	スーパー	—		
	自動車販売	・良くなる要因がない。		
	レストラン	・来客数のバラツキが大きくなっており、少ない日の下げが大きい気がする。		
	レストラン	—		
悪くなる	商店街関係者	・社会情勢の悪化、電力不足による様々な節約等。		
	商店街関係者	・東北地震があつたりして、当分悪い状況が続くと思います。		
	小売店	—		
	小売店	—		
	レストラン	・6月中旬にも予定されている高速道路利用金の割引廃止で客足が鈍る恐れがあります。		

		小売店	・会社の休業が多くなり、収入が減少する為、外へはお金を使えなくなる為、かなり悪くなると思います。普通に戻るまでには時間がかかると思います。復興が進むようになれば仕事がいろんな分野が増えてくと思うので、ここが皆のふんばり所だと思います。がんばれ 日本！
		金融機関	・震災の影響や電力不足などの影響が景気に与えるダメージが大きいと感じるため。
	無回答	スーパー	—
		理容店	—
雇用 関 連	やや良くなる	人材派遣会社	・①6月以降から徐々に回復の兆しがみえ、7～8月頃から更に勢いを増すと思われる。②6月以降の発注が徐々に増え、顧客動向から先が見えてきた。・・・但し不安要素もある。
	変わらない	学校就職担当	—
		労働相談所	・大震災と浜岡原発停止の影響で経済活動に明るさがみえてこない。
		自治体労働政策担当	・受注が戻ったとしても、短期間で収益の向上は見込めない。もう少し先の回復になるのではと思います。
	やや悪くなる	職業安定所	・東日本大震災の影響がいつまで続くか先行き不透明。
		労働金庫	・中津川地区の自動車関連企業においては震災の影響で稼働率が50%程度となっている。また、夏場の電力事情が自動車関連以外でも操業についての不安材料となっている。
学校就職担当		・電気の節電が今後すすめば、製造業の仕事量にも少なからず影響を与え、公務員の給与も減額されそうですが、消費にも悪影響をあたえそうです。	